

地域支援部だより

～佐々町特別支援教育コーディネーター連絡協議会 全体研修会報告～

2025.9.11

佐世保特別支援学校は、主に佐世保市、佐々町、小値賀町へ地域支援を行っています。また、佐世保市と佐々町においては、特別支援教育コーディネーター連絡協議会の事務局を担当しています。

連絡協議会では、地域の特別支援教育の理解・推進を目的として、毎年、全体研修会を実施しています。佐々町では、8月7日に幼稚園、認定こども園、保育所、小・中学校、高等学校の先生方と協力し、全体研修会を佐々町地域交流センターで開催しました。講師に長崎市立伊王島小中学校校長 上原敏勝氏をお招きし、「インクルーシブ教育における特別支援教育の取組」という演題で、講話をしていただきました。

講話：「インクルーシブ教育における特別支援教育の取組」

講師：長崎市立伊王島小中学校 校長 上原敏勝 氏

【主な講話内容】

- インクルーシブ教育への経緯
- インクルーシブ教育システムとは
- インクルーシブ教育システムの土台を作る伊王島小中学校での特別支援教育の推進



【講話後のアンケートから（一部紹介）】

- ・インクルーシブ教育や、UDL（学びのユニバーサルデザイン）などについて詳しく説明があり、とても参考になりました。また、マルトリートメントなど、これからの子供たちとの関わりの中で考えていく必要があることも知ることができました。
- ・今回の話を聞きながら、自分がどんなことができるだろうと改めて考えることができました。特別支援、UDの考えは今の時代には、特に大切に、学級集団、職員集団、家庭、どの集団でも必要なのだと改めて感じることができました。マルトリートメントを意識したいと思いました。
- ・たくさんの情報をいただき、2学期からの授業作りや児童との関わりの中で実践していこうと思いました。特に3つの「しき」については大いに共感するところがありました。
- ・たくさんの情報を基に、どのような流れで今のインクルーシブ教育、特別支援教育に繋がってきたのかを教えていただき分かりやすかったです。学校経営の実例が素晴らしく、学級経営に活かせそうだと思いました。
- ・「できないこと」ではなく「できること」に焦点を当てる視点や、本人の気持ちやペースを尊重する姿勢が、マルトリートメントを防ぐ重要なポイントであると学びました。特に、支援のつもりで発した言葉が相手を傷つけてしまう可能性があることは、自分の指導場面でも意識していきたいと思います。



たくさんの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。

佐世保特別支援学校では、定期的に学習会を実施しています。次回は11月5日（水）15:30～16:30で、内容は「指導支援について」を予定しています。たくさんのご参加をお待ちしています。